

第3回 特別研修会

高齢社会における口腔インプラント治療のあり方 — 最期まで患者に寄り添うために —

日時：令和1年12月7日(土)
場所：(株)松風東京営業所
講師：窪木拓男先生



迫田 竜二 (大分県)



2019年度第3回特別研修会が(株)松風東京営業所で開催されました。朝から小雨が降り寒さも厳しい中44人の先生方が参加されました。

今回は、岡山大学の窪木拓男先生をお招きし「超高齢社会における口腔インプラント治療のあり方-最期まで患者に寄り添うために-」の演題で講演して頂きました。

現在日本は超高齢社会に突入し、インプラント治療を受けた(またはこれから受ける)高齢者は年々増加しています。それに伴い介護の現場では、その人の口腔内にインプラント義歯があるのかないのか、インプラント義歯の人工歯根部を撤去せずにいると、免疫力の低下などにより人工歯根が感染源になりその患者の生命予後を悪化させないか等、介護支援者の間に不安が広がっているそうです。口腔内にインプラント義歯があるかどうかを判断し、必要があれば、そ

れを撤去したり、生活しやすい形に改変したりしてくれる歯科医師が介護現場に少ないことが主たる原因だそうです。要介護者やその一歩手前の高齢者にとって、咬めない食事が出来ないという事は死活問題であり、欠損部位を補綴しないで放置している本数が8本を超えると死亡率が格段に上昇し、認知症を発症する割合も増すそうです。

私も含めて、本会の先生方の多くが介護支援を必要としない自院に通院して頂ける患者さんを診るのが日常と思われます。今回の窪木拓男先生の講演を拝聴し、インプラント治療を患者に施した我々歯科医、その後のメンテナンスの携わる歯科衛生士が、最後まで責任をもって患者さん人生に貢献するためにそのライフステージに照らし合わせて、どのような知識や技をもって対応すべきか考えさせられました。